

11月 15日(月)

1校時

授 業 テ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 三枝 陽 )
学 級 名	1年 1組	男子11名 女子10名 計 21名
教 科 名	国語	
単 元 名	じどう車くらべ	
本時の目標 (ねらい)	○事例の順序について考える活動を通して、構成の意図を捉えることができる。	
論理的思考力 をつけるため の手立て	説明文の学習では色別にした順序のカードを使い、すべて順序よく並べられていることを学習してきている。	
<p>授業の流れ(簡潔に箇条書き)</p> <p>○前時のふり返しをする 名前・仕事・つくり①・つくり② の順に書かれている。 順番に書くとわかりやすい。</p> <p>○本時の課題を確認する。 ①車・バス ②トラック ③クレーン車 の順番に書かれているのはどうしてか?</p> <p>○音読をする。</p> <p>○車やバスの特長を捉えながら順番を考えさせる。 この順番にするといいところは? クレーン車が最初だったらどうかな? 生活経験と自動車の比較しながら順番のよさに気づかせていく</p> <p>○まとめと振り返り。</p>		
授業者より		
<p>今回の順番を考えさせる場合、本文からの読みとりより生活経験からの読みとりになります。</p>		

## 《成果と課題》

○児童は自分の生活経験や今までの学習内容からわかりやすい順序を理由をつけて発表することができた。

▲文章の内容から読みとり、その中から根拠と理由を見つけることができる手だてをさらに考えていかなければならない。

11月 12日(金) 4校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 佐々木 安奈 )	
学 級 名	1年 2組	男子 11名	女子 10名 計 21名
教 科 名	国語		
単 元 名	じどう車くらべ 《2時/全7時間》		
本時の目標 (ねらい)	○どんなことがどの順番で書かれているのか、文章内容の大体を捉えることができる。		
論理的思考力 をつけるため の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しごと」と「つくり」についてまとめることで、文章の構成について考えられるようにする。</li> <li>・問いの文に着目し、でてきた自動車を確認できるようにする。</li> </ul>		
<p>1 本時のめあてを確認する。 《めあて》どんなことがかかかれているのか、たしかめながらよもう。</p> <p>2 文章に書かれていることを確かめ、内容の大体を捉える。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「くちばし」や「うみのかくれんぼ」の学習を思い出し、説明的文章には問いの文と答えの文があることを押さえる。</li> <li>・「それぞれのじどう車は、どんな仕事をしていますか。」「そのためにそのために、どんなつくりになっていますか。」の二つの問いの文に気付かせる。</li> </ul> </p> <p>3 前時に学習した「しごと」と「つくり」について確認し、それぞれの自動車についてまとめる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しごと」には赤い線、「つくり」には青い線を引く。</li> <li>・自動車ごとにワークシートにまとめる。</li> </ul> </p> <p>4 本時の振り返り。</p>			
<p>授業者より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を色分けすることは、内容の順序を理解させるうえで有効であったか。</li> <li>・児童は、これまでの説明的文章の学習と比べながら、自分の考えを発表していたか。ご指導をお願いいたします。</li> </ul>			

《成果と課題》

○児童はこれまで学習した説明的文章と関連づけて、くり返し使われている言葉に着目し、わかりやすい順序を考えることができた。

▲問いの文や答えの文について触れたのは初めてであったため、今後の学習にも効果的に取り入れ、より深く捉えていきたい。

## 授 業 デ ザ イ ン シ ー ト

授業者：( 保坂 美紀子 )

学 級 名	1 年 3 組	男子 <u>10</u> 名 女子 <u>11</u> 名 計 <u>21</u> 名
教 科 名	国語	
単 元 名	よんでたしかめよう「うみのかくれんぼ」《6時/全8時間》	
本時の目標 (ねらい)	○事柄の順序に気をつけて読み、生き物の隠れ方や構成・内容の特徴を捉えることができる。	
論理的思考力 をつけるため の手立て	『自分の考えを説明する場面設定』の工夫 本文を色分けし、ワークシートに書き込ませることで、事柄の順序を理解させ、説明的文章の構成・内容を捉えさせる。	

## 授業の流れ(簡潔に箇条書き)

## 1 前時までの学習を振り返る。

- ・前時までの学習を振り返り、はまぐりやたこのかくれかたを板書や写真で確認させる。

## 2 本時のめあてを確認する。

もくずしよいのかくれかたをよんでたしかめよう。

## 3 もくずしよいの事例を読んで問いに対する答えを見つける。

もくずしよいはどのようにかくれるのでしょうか。

## (1) 本文を色分けし、ワークシートに書き込む。

- ①生き物の名前→赤でかこむ。
- ②場所 →青でかこむ。
- ③体の特徴 →緑で線を引く。
- ④隠れ方 →オレンジで線を引く。

- ・前時までと同様の事柄に沿って確かめることを確認する。
- ・もくずしよいの隠れ方を、本文から見つけ色分けさせる。

## (2) もくずしよいについて見つけたことを話し合う。

- ①隠れている場所
- ②隠れ方(体のこと)
- ③友達と同じだったこと、違ったこと

- ・もくずしよいは、岩の近くに隠れている。
- ・もくずしよいは、はさみで、海藻などを小さく切ることができる。
- ・もくずしよいは、海藻に変身する。

○動画で隠れ方を確認し、動作化させることで、もくずしよいの隠れ方を理解させる。

## (3) 三つの生き物を比べて、話し合う。

三つの生き物を比べて、気がついたことや思ったことを話し合ひましょう。  
色分けして気づいたことはありますか。

何のために隠れているのだと思いますか。

- ・三つとも同じ順番で書かれていた。
- ・もくずしゅいは、他のものに変身するからすごいと思った。
- ・みんな敵から隠れているんじゃないかと思った。

○三つを比べることで、文型が同じであることに気づかせ、事柄の順序に沿って書くことの良さを実感させる。

#### 4 他の生き物の隠れ方を分類する。

「他の生き物は、どんな隠れ方をしているのでしょうか。」

- ・これは、はまぐりと似たような隠れ方をする。
- ・たこのように、自分の色を変えられる。
- ・この生き物は、もくずしゅいのように形を変える。

○「うみのかくれんぼ もぐってかくれる」「うみのかくれんぼ いろをかえてかくれる」「うみのかくれんぼ かたちをかえてかくれる」（武田正倫・監修 金の星社）の写真を紹介して読み聞かせを聞き、さらに生き物の生態について読み深める。

#### 5 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。

- ・ワークシートをもとに、本時の学習を振り返る。
- ・次の時間からは、海のかくれんぼのように、自分で生き物について調べてまとめ、説明し合うことを知らせる。

#### 授業者より

- ・本文を色分けすることは、事柄の順序を理解させるうえで有効だったか。
  - ・児童は自分の考えを友達の考えや以前学んだことと比べながら発表していたか。
- アドバイスをお願いします。

#### 指導計画

- 1時間目 写真から海に隠れている生き物を予想し、発表し合う。
- 2時間目 学習課題を捉え、学習計画を立てる。
- 3時間目 「うみのかくれんぼ」を読み、文章全体の構成をつかむ。
- 4時間目 「はまぐり」の事例を読んで何がどのように隠れているかをワークシートにまとめる。
- 5時間目 「たこ」の事例を読んで、「はまぐり」と比べて気づいたことを話し合う。
- 6時間目 「もくずしゅい」の事例を読んで、「はまぐり」「たこ」と比べて気づいたことや感想を交流する。（本時）
- 7時間目 図鑑や科学読み物などから、他の生き物の隠れ方を調べてワークシートに書く。
- 8時間目 調べたことを友達と説明し合い、学習を振り返る。

#### 《成果と課題》

○写真や画像等を取り入れたことで、児童が興味・関心をもつことができた。また、板書計画をしっかりとて、本文を色分けしたことは、事柄の順序を理解させるうえで有効だった。

▲言葉や語句を根拠に話し合うことができるよう、ねらいのもち方をよく考え、発問・めあてを工夫するとよかった。

10月21日(木)

3校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 岩間 仁美 )
学 級 名	1 年 4 組	男子 11 名 女子 10 名 計 21 名
教 科 名	国語	
単 元 名	くじらぐも 《5時/全8時間》	
本時の目標 (ねらい)	〇くじらぐもに乗るまでの子どもたちとくじらぐもの様子を想像して,工夫して音読することができる。	
論理的思考力 をつけるため の手立て	『自分の考えを説明する場面設定』の工夫 ・どのように音読するか考える際,根拠となる言葉に着目させる。 「三十センチ」「五十センチ」「やっと」「こんどは」 ・「なぜそう考えるのか」,理由をはっきりさせて説明できるように仕組む。	
<p>授業の流れ</p> <p>1 本時のめあての確認をする。 《めあて》くじらにのろうとする子どもたちとくじらぐものようすをそうそうして,くふうしてよもう。</p> <p>2 くじらぐもに乗るまでのくじらぐもと子どもたちの様子を,文の中の言葉に着目して想像する。 ・繰り返しの言葉「おうい」「ここへおいでよう」「天までとどけ,一,二,三。」「もっとたかく。もっとたかく。」の読み方を考える。 ・1回目「やっと三十センチぐらい」 2回目「こんどは,五十センチぐらい」 3回目でくじらぐもに乗ったことを押さえる。 ・会話文を視覚でも捉えられるように吹き出しで示し(吹き出しの大きさ,位置など)音読にいかせるようにする。(吹き出し→個人用・板書用を用意する)</p> <p>3 読み取ったことを,音読で表現する。 ・声の大きさ 勢い (言葉だけでは難しい児童には動作化も取り入れてみる。)</p> <p>4 本時の振り返り</p>		
<p>授業者より</p> <p>「低学年の児童に身に付けさせたい力」である「自分の考えをもつ」ために,根拠となる表現に注目させたい。その言葉をもとに『どう読みたいか』『なぜそう考えたのか』を友達に伝え合う場面を大切に扱い,『めあて』とした音読の工夫にいかしたい。</p>		

## 《成果と課題》

〇一つ一つの言葉にこだわることで,読みの根拠となる表現やなぜそう読みたいか理由を伝えようとする姿が見られるようになった。

▲動作化など,他の方法も取り入れて実践していきたい。

10月 11日(月)

3校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 降矢万由子 )
学 級 名	2年 2組	男子 11名 女子 15名 計 26名
教 科 名	国語科	
単 元 名	お手紙(5時間目/全12時間)	
本時の目標 (ねらい)	〇二人の心の声を想像して、音読を工夫しよう。	
論理的思考力 をつけるため の手立て	がまくんとかえるくんの心の声を根拠に、どのように読めば登場人物になり きった音読ができるか、工夫を考える。	
授業の流れ(簡潔に箇条書き)		
〇導入		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p12~p15を音読する。</li> <li>・ めあてを知る。</li> </ul> 「二人の心の声を想像して、音読を工夫しよう。」		
〇展開		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挿絵を見て、悲しい気分でのときの二人の心の声を考える。</li> </ul>		
〇まとめ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読の工夫を考える。</li> <li>・ グループごとに音読をする。</li> </ul>		
授業者より		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めあてを提示するタイミングはどうだったか。</li> <li>・ 想像した心の声をもとに、音読の工夫を考えることができていたか。</li> </ul>		

## 《成果と課題》

〇グループごと、登場人物の心の声を想像したことをもとに、音読の工夫を考えることができた。

▲めあてを提示するタイミングや内容は、授業の流れを意識したり、めあてを達成する意義を児童たちに理解させたりすることが大切である。

▲授業内容の時間配分については、今回の研究授業のめあてに音読を工夫することが含まれていたが、音読を工夫して練習する時間や音読の内容を深める時間や手立てが少なかった。45分間の授業の中で、充実した活動ができるように私自身、教師としての意識も高めていきたい。

10月 29日(金)

3校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 堀内 理子 )	
学 級 名	3年 2組	男子 14名	女子 16名 計 30名
教 科 名	国語科		
単 元 名	すがたをかえる大豆		
本時の目標 (ねらい)	○自身の書く説明文には、「問い」を書くのか、かくすのか、意図をもって考えることができる。		
論理的思考力 をつけるため の手立て	後の単元で説明文を書く際、意図をもって「問い」を書くか、かくすかの選択ができるように、「問い」を書く良さと、「問い」をかくす良さを問う。		
授業の流れ(簡潔に箇条書き)			
1. 「問い」を復習する。			
2. 本時のめあてを提示する。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;">           かくれている「問い」について考えよう。         </div>			
3. 「すがたをかえる大豆」の「問い」の文を考える。			
4. 「問い」が書かれていることの良さを考える。			
5. 「問い」がかくれていることの良さを考える。			
6. 説明文を書くとき、自分なら「問い」を書くか、かくすかを考える。			
7. まとめ			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">           問いの文を書くと、注目してほしいことを伝えられる。            問いの文がかくれていると、「中」をそうぞうしながら読んでもらえる。         </div>			
8. 振り返り			

## 《成果と課題》

○「問い」を書くことのよさ、書かないことのよさを考え、次の単元で自身が書く説明文には「問い」を書くのか、書かないのか意見交流をするなかで、自分の意見を理由と共に述べる様子が見られた。また、学習感想の見取りから、意見交流を経て自分の意見を変えた児童もいたことから、友達の様々な意見や理由を聞いて納得したことがうかがえた。

▲本時の題材である「問い」は1学期の既習内容であるが、忘れてしまっている児童がいたり、発問が児童にとって難しいものになってしまったりしたため、本時の学習課題の周知に時間がかかってしまった。学級の実態に合った学習課題を設定することが、全員が主体的に学ぶ上で必要不可欠であると実感した。

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 那口 仁 )	
学 級 名	3年4組	男子 15名	女子 15名 計 30名
教 科 名	国語		
単 元 名	修飾語を使って書こう		
本時の目標 (ねらい)	○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知(1)カ) ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知(1)オ)		
論理的思考力 をつけるため の手立て	『自分の考えを説明するワークシート』の工夫 ・分からないことや詳しく知りたいことを記入できるものを用意する。		
授業の流れ(簡潔に箇条書き) 1 前時までの学習を振り返る。 ・文の中で「何が(は)」「だれが(は)」に当たる言葉を主語、「どうした」「どんなだ」「なんだ」に当たる言葉を述語ということを確認する。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">くわしく分かる文章を書こう</div> 3 絵を見ながら文に言葉を付け足し、詳しくする言葉を「修飾語」ということを知る。 <div style="margin-left: 40px;">           花が さきました。                      ↓            赤い 花が さきました。                      ↓            赤い 花が たくさん さきました。         </div> 「係る」という言葉も理解する。 4 もっと詳しくするとしたら、どんな修飾語が入るか考える。			





11月 12日(金)

2校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 中沢 亜矢子 )			
学 級 名	すみれ2-1 組	男子	4名	女子	2名 計 6名
教 科 名	国語(3年)				
単 元 名	はんで意見をまとめよう				
本時の目標 (ねらい)	○自分のおすすめの本について、理由を明らかにして話したり、友達の話をよく聞いて、めあてに沿った本を選んだりすることができる。				
論理的思考力 をつけるため の手立て	『自分の考えを説明する場面設定』自分のおすすめの本やおすすめの理由について、「なぜなら」や「～だからです。」などの言葉を用いながら、自分の言葉で説明させる場面を設定する。				
授業の流れ(簡潔に箇条書き)					
1. 本時のめあての確認をする。 《めあて》すみれの1年生に読み聞かせをするのにおすすめの本を選ぼう。					
2. 役割分担や順番の確認をする。 司会・記録・時間を一人ずつ → 半分終わったら交代					
3. 「ミニビブリオバトル」を行う。 ①おすすめの本について一人3分間スピーチ ②質問タイム					
4. 話し合いをする。                      どの本がよいか、自分の考えを伝える。					
5. 投票をする。 ・自分以外の本でよいと思うものに投票する。 ・開票する。					
6. 本時のふりかえり ・感想カードに記入する。(時間があれば発表する。)					
授業者より					
・ゲーム的な要素を含めた話し合い活動を設定したことは、ねらいを達成するために有効だったか。また、論理的思考力を身につけるための手だてとなるか。					
・児童は、相手に伝わるように説明しようとしていたか、友達の話をよく聞いていたか。 アドバイスをお願いします。					

## 《成果と課題》

○役割分担を決め、話し合い活動を行うことができた。話し合い活動にはとても意欲的に取り組んでいた。

○自分の考えをもって、「なぜなら～」や「～だからです。」などの言葉を使って話すことができた。投票用紙にも理由を書くことができた。

▲話し合いの根拠となる基準や、みんなが納得できる材料を示すことができたなら良かった。そのためには、語彙を増やしたり、基礎的なコミュニケーション力を育てたりする必要があると感じた。

▲ゲーム的な要素を取り入れることで、とても意欲的だったが、勝敗にこだわってしまう場面も見られた。

11月 8日(月)

2校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 田部井 瞳 )			
学 級 名	すみれ1-1組	男子	2名	女子	1名 計 3名
教 科 名	国語				
単 元 名	かたかなを みつけよう 《2時/全2時間》				
本時の目標 (ねらい)	○かたかなの読み方、書き方に気をつけながら、身の回りにあるかたかなを使うものの名前を探し出し、書くことができる。				
論理的思考力 をつけるため の手立て	文字や数字など多くの字が並んでいる広告の中から、かたかなを見つけて読み取り、ノートに書き出す活動をする。				
授業の流れ(簡潔に簡条書き)					
1 本時のめあてを確認する。 「かたかなをみつけて、かこう。」					
2 教科書P112の唱え歌を声に出して読む。 ・唱え歌の中からかたかなで書かれている言葉を探す。 ・教科書の中から見つけたかたかなに丸をつける。					
3 かたかなを見つけて書く。 ・それぞれの広告からかたかなで書かれた言葉を見つけ出し、ノートに書く。					
4 見つけたかたかなを発表する。 ・それぞれの見つけたかたかなを発表し、共有する。 ・広告を通して、日常にはかたかなで書く言葉がたくさんあることに気づかせる。					
5 本時の振り返り					
授業者より 児童は2年生2人ですが、1年生の教科書の内容となります。					

## 《成果と課題》

○具体物(広告)やICTを利用することで、児童の興味を惹くことができていた。掲載されている絵や写真も、カタカナを見つけるための手助けとなっていた。

○どちらの児童も、様々な文字の中からカタカナを見つけて読み書きする活動に取り組むことができていた。

▲見つけることが目的なのか、書くことが目的なのかが分かりにくかった。(書くことが目的ならば、のぼす音やつまる音などを確認してノートに書く時間があってもよかった。)

▲カタカナで書かれた商品名などを意味を理解していないまま抜き出している様子があったので、カタカナを使うものはどんなものかという問いかけがはじめのほうにあるとよかった。

11月 15日(月)

4校時

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者：( 佐藤 浩次 )	
学 級 名	4年 3組	男子 16名	女子 12名 計 28名
教 科 名	国語(書写)		
単 元 名	文字の組み立て方「岩山」(1/2)		
本時の目標 (ねらい)	○上下(左右)の組み立て方を意識しながら自分のめあてを設定し、意欲を持ち字形を整えて書くことができる。		
論理的思考力 をつけるため の手立て	・組み立て方を意識し字形を整えて書くために、自分はどんな目当てを設定すべきか考えさせる。		
授業の流れ(簡潔に箇条書き)			
1 課題を把握する			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「岩山」を書くにあたり、文字の組み立てで意識すべきことを全体で確認する。</li> <li>「岩」の「山」や「石」は高さが低くなる。等</li> <li>・教材用動画を見て、ポイントを確認する。</li> <li>「石」の中心は少し右にずれる。等</li> <li>・自分のめあてを決める。</li> </ul>			
2 課題に取り組む			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・留意点等は最初に確認し、自分と向き合いながら書く時間を確保する。</li> <li>・最初3枚書き、時間があればあと2枚書く。</li> </ul>			
3 自分の取り組みを振り返る			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントについて自分の字を見ながら、再確認させる。</li> <li>・自分の目当てを達成できたか振り返らせる。</li> </ul>			
授業者より			
<p>「お手本をよく見て、お手本通りに書きましょう」という『受け身的な学び』から、児童がどうすれば整った字を書けるのかを考えてかけるようにする『主体的な学び』になるようにめざしています。めあてを一人一人と確認します。「対話的な学び」は試行錯誤中です。</p>			

## 《成果と課題》

○一人一人にしっかりめあてを決めさせるなど、よい字を書くために主体的に考えさせることができた。

○1時間の中で、「目当て決め」「自分と向き合い習字に取り組む」「かたづけ」「ふりかえり」等を取り入れることができ、タイムマネジメントがうまくできていた。

●自己評価だけでなく、相対評価を取り入れるなど、評価がより客観的なものになるよう工夫していく。